

韓国高齢者の年齢差別(Ageism)の経験に関する研究

Seoul National University

Kim Ju Hyun

1. 研究目的

本研究は韓国高齢者の年齢差別(Ageism)の経験を質的方法を土台に分析し、加齢を取り囲む差別の経験が社会的存在としての意味と役割を規定し生活世界の多様な面に影響を及ぼすことを明らかにする。韓国高齢者が家族を含む他人とどんな状況で高齢を理由に差別と不当な待遇を経験し、高齢者たちがどのように対応し、一連の経験が高齢者が老年期の自身の社会的な位置と役割を構成するのにどのように作用するのか探索する。

2. 資料、研究対象

研究対象者は基準依拠型サンプリング(criterion-based selection)を用い、女性高齢者、独居高齢者、健康状態が悪く施設に居住する高齢者、そして就業活動中の高齢者に集団を区別し各集団別で性別、年齢、家族形態、経済状態、健康状態などの属性を考慮して選択した。本研究の深層面接(in-depth interview)は2012年12月から2013年の2月まで行われた。面接対象者の倫理的な保護のためにインタビュー前に研究の目的と内容、手続き、及び研究活用と秘密保障に対する内容を文書化して詳しく説明しこれに対する同意書を得た。面接対象者の自発的な研究参加を確認し、仮名処理など個人情報保護に万全を期することを約束した。研究の質的資料分析はNvivo10を利用した。

3. 結果

研究結果、122個の概念(concepts)、29個の範疇(categories)、9個の中心主題(theme)を導き出した。中心主題の内容では、加齢に対する認識と老化に対する不安、社会活動と家族内の地位が以前と異なることへの内的変化に直面し家族や他人との関係で社会的排除を経験しながら諦め、収容/理解、拒否、怒りの反応を見せる高齢者の悲しみが出た。そして高齢者はこれに対し消極的及び積極的対応を取った。差別的経験は韓国高齢者の老年期の意味形成に重要に影響を及ぼすものと出た。

4. 結論

老年期の差別の意味に対し高齢者の観点でありのままの経験を把握するために深層面接と観察を通じて収集した資料を活用した。年齢差別を取り囲む個人的要素だけでなく総体的で脈絡のある要素に対しより豊かな分析が可能となりその価値を強調できた。また具体的な差別の経験を高齢者自らの声を通じて再構成し本質的な意味を探求した。これらの作業は老年に対する科学的理論と具体的経験との間隙を暴くきっかけになった。現在社会的に論議されている老年の談論が肯定的であれ否定的であれ高齢者を整形化し他者化する状況の中で韓国の高齢者は自らの姿を捜すために孤軍奮闘しているのである。

This work was supported by the National Research Foundation of Korea Grant funded by the Korean Government [NRF-2010-330-B00005]